

## 【社会福祉科】

### ア 目標

幅広い視野を持ち、他者と協働できる資質・能力を育み、地域の福祉分野を支え、持続的な発展に貢献できるグローバルな視野をもったリーダーを育成する。

### イ 産業界とのマッチングの経緯

- ・本校では、スマート産業の連携協定を各専門学科で結んでいる。社会福祉科では、熊本県福祉介護用品協会、熊本県介護福祉士会、阿蘇市と連携協定を結んでいる。その連携協定を活用した授業を今年度初めて実施した。
- ・例年、阿蘇市社会福祉協議会と連携し、阿蘇市内の小中学校への福祉体験学習を実施している。阿蘇市社会福祉協議会が主催する福祉体験学習を、社会福祉科の生徒が主になり小中学生の体験活動を行うという内容である。年々取組が充実しており、今年度は、4校に対して実施した。
- ・株式会社日本リモナイト様は、介護総合演習の授業において、福祉分野で役立つ製品作りを企業と一緒にやりたいという希望を産学連携コーディネータに伝え、企業とのマッチングを図った。次年度より具体的な取り組みを予定している。

### ウ 産業界との対話により、再検討をしている「育みたい生徒の資質・能力」

これまで外部連携をする際には、専門的知識・技術を学ぶことや、日頃授業で学んでいることが、福祉の現場でどう生かされるかを生徒に実感させたいという思いで実施してきた。しかし、マイスター・ハイスクールの取組で産業界の方々と話をする、コミュニケーション能力の他にも、能動的に行動できる人材を求められていることを感じた。実際にマイスター・ハイスクールの授業を展開するなかで、生徒たちが自分からアイデアを出し、積極的に質問する姿が見られた。こういった姿を見て、企業と連携することで、自分が興味を抱いたことに対して、能動的に行動し探究する力を身に付けることができるのではないかと考えている。

### エ 実施内容

学年組	科目	回数・時間	連携企業等
社会福祉科 全学年	生活支援技術	4回・8時間	・熊本県介護福祉士会 ・熊本県福祉介護用品協会 ・介護老人保健施設愛 ライフ内牧 ・特別養護老人ホーム あそん里 ・阿蘇市社会福祉協議会

#### ①連携前の授業の課題

介護現場で福祉用具がどのように活用されているか、利用者の状況やケース等を具体的に伝えられていなかった。また、最先端の介護ロボットを授業で活用する機会がなかった。

#### ②産業界との連携により変化した授業内容

今年度から始まったスマート産業の連携協定を活用した、スマートふくし連携授業を実施した。介護ロボット、手浴・足浴、体位変換（スライディンググローブ&シート）、介護ロボットの計4回を実施した。熊本県介護福祉士会と介護老人保健施設の職員の方々が、生徒のグループ

に指導者として入った。また、介護ロボットの授業の際には、介護老人保健施設の職員の方から、施設での介護ロボットの使用状況や、介護ロボットを使用されている利用者の身体状況などを生徒に話していただいた。さらに、阿蘇市内の福祉施設にも呼びかけ、職員研修として活用された法人もあった。外国人の介護職の方も参加し、生徒とコミュニケーションを図った。

### ③生徒の変化

- ・介護ロボットを活用することで介護事故のリスクを下げ、安全で安心な介助を行うことにつながることを学んだ。多くの人が安心安全活用できる正しい使い方を広めたい。
- ・電動車椅子では、前輪と後輪の作りが異なる等、よく見ると利用者の安全に配慮されているつくりが多く取り入れられていた。

### ④職員の変化

介護現場における介護ロボットの活用は、教員としても疑問に思っていたことであり、現場の方だからこそ、生徒に具体的な話を伝えることができた。やはり、こういったところに専門職と協力して授業をすることの意義があるのだと感じた。



(移乗ロボットHug)



(電動車いす)



(スライディングシート)

学年組	科目	回数・時間	連携企業等
社会福祉科 全学年	生活支援技術	4回・16時間	<ul style="list-style-type: none"> <li>・阿蘇市社会福祉協議会</li> <li>・熊本県福祉介護用品協会</li> <li>・熊本県介護福祉士会</li> <li>・アソウェル (ボランティア)</li> </ul>

福祉・介護に携わる方々と協働して、小中学生に魅力を伝える授業を行った。今年度、阿蘇西小学校 (6/13)、一の宮中学校 (9/4)、阿蘇中学校 (9/6)、一の宮小学校 (12/10) の4校に対して実施した。本校の福祉科棟の実習室等で実施したことにより、小中学生が高校に来る機会を作り出すことにもつながった。

内容は、高齢者疑似体験、視覚障がい者体験、パラスポーツ、妊婦体験、あかちゃん抱っこ体験、車いす体験、介護ロボット体験等から、小中学校の先生方との事前協議にて決定した。また、小中学生が最新の介護ロボットや福祉機器に触れる機会も設けた。高校生が講師役となり体験学習を実施し、教える側の生徒自身にとっても学習内容の定着が見られた。また、熊本県介護福祉士会の方や、福祉施設職員の方によるボランティア団体に参加した際には、施設職員の方から介護のやりがい話を話す機会を設け、中学生だけでなく、高校生にとっても良い刺激になった。



## オ 今年度の課題

今年度は、これまで実施していた取組に加え、学科で話し合い新しく連携する企業を取り入れる形でマイスター・ハイスクールの取組を進めた。しかし、どのような力を育むためにどのような企業と連携するか、体系的に決めて実施することはできていなかった。次年度以降は、どの学年でどういった力を育むために、何の取組をするかを決め、時期なども検討して計画的に実施していきたい。

具体的な課題としては、福祉体験学習に関しては、協力してくださる外部の方々にとのように関わっていただくかについて、それぞれの団体との検討が必要であると感じている。また、スマートふくしの連携授業についても、参加予定の介護施設職員の方に、予め話をしていただくことの内諾を得て、その内容等についても打ち合わせた上で実施すると、更に効果は上がると感じた。

## カ 次年度へ向けての方向性・計画

次年度は、体系的に計画を立て、各学年で育みたい力に対応した取組を実施していきたい。また、福祉車両について、ウェルタウンくまもと様との連携を、1年次の介護実習前に実施したいと考えている。さらに、熊本県介護福祉士会の副会長と対話した際、介護福祉士の研修を本校で開き、高校生も参加できる取組が可能ではないかと提案をいただいたため、次年度実現したいと考えている。

令和7年度の校外学習や外部講師招聘等の計画案は、以下の通りである。

月	1年生	2年生	3年生
4			
5		日本リモナイトとの商品開発（以後定期的に）	
6	福祉体験学習（通年で小中学校から依頼があった時に実施）		
	合志市社会福祉協議会訪問		
7			
8			
9	福祉車両・嚙下講習		
	スマートふくし連携授業開始（～12月（予定）） （実施期間は、介護ロボットレンタルに係る予算に応じて変更）		
10			
11	介護福祉士会との合同研修		
12	事例研究発表会（参加は全学年、発表者は3年生）		
1	ノーリフティングケア		
2			
3	高齢者サロン		

現段階での案であるが、各学年の学習内容や介護実習の内容に応じて計画を立てた。今後、新たな案や連携も出てくる可能性はあるが、学校行事や予算との関連を考慮しながら可能な範囲で実施していきたい。

## 【普通科】

### ア 目標

- ・自らの進路実現に活用できる学力の定着と主体的な課題解決力を育成する。
- ・自己の可能性を最大限に広げ、大学進学を含めた多様な進路選択に対応できる学力を身に付けさせる。

### イ 産業界とのマッチングの経緯

生徒の読解力を向上させたいという思いから、壺溪塾様に相談をした。壺溪塾様には、これまでに本県の One Team プロジェクト事業の取組として行っていた近隣校との学習会の際にお世話になっており、One Team プロジェクト事業の取組でのつながりや成果をいかせるものと考えた。また、普段の教科の授業においても、教科書を読み解き、その解釈を最後にまとめさせるなど読解力を鍛える取組等を行っており、それをよりよいものとし、生徒の学習意欲の向上につなげたいと考えた。

### ウ 産業界との対話により、再検討をしている「育みたい生徒の資質・能力」

読解力を向上させることで、知識と知識を繋げたり、そのために必要な思考力・判断力・表現力の育成に繋げ、コミュニケーションスキルの向上や社会の諸課題に対応できる生徒を育成したいと改めて考えた。各教科で読解力の向上に取り組むのはもちろん、生徒たち自身が、読書や文章作成を行う際に読解力向上を意識させていきたいと考えた。

### エ 実施内容

学年組	科目	回数・時間	連携企業等
1年1組 2年3組	LHR(出前授業)	1回・3時間	学校法人 熊本壺溪塾学園 専修学校 壺溪塾 木庭順子先生

#### 取組・学習内容

事前課題として「リスク」に関する課題文を読み、小論文を書いた。当日は、読解力とはどのようなものか、読解力の重要性、読解力向上の方法の講義が行われた。さらに、事前課題の内容を講義参加者全員で話し合い、内容を深めていった。その後、事前課題の内容を各自吟味し、新たに書き直した。最後にその文章を全員が発表して終了した。

事後アンケートの結果、5段階評価(5に近い方が肯定的な意見)の平均が、「読解力とはどのようなものかがわかった」が4.3、「読解力を向上させる必要性を感じた」が4.6、「読解力を向上させる方法が分かった」が4.3といずれも肯定的な意見が見られた。さらに感想の中には、読解力の必要性やその向上への意欲、読書への意欲、読書をする上での注目すべきポイントなど、生徒たちの意欲の高まりを感じ取ることのできる内容が書かれていた。





#### オ 今年度の課題

連携先へこちらのねらいを詳細に伝える必要性を実感した。生徒の実態などを含めて、授業の前のやりとりをうまく進めていくことができれば、更によかったのではないかと思う。演習をどのくらい組み込むかなど、連携先との対話の中ですり合わせができるようにしたい。

#### カ 次年度へ向けての方向性・計画

効果的な時期や複数回継続（冬と夏の2回など）などを検討し、生徒の変容を見取れる授業を実施したい。

また、普通科の学びとマイスター・ハイスクールとは直結しづらいと考えていたが、総合的な探究の時間との親和性が高いと感じた。総合的な探究の時間に地域企業と連携して探究活動を行うことで、企業のアイデアや技術に触れ、地域企業の魅力を実感できる場を作りたいと考えている。具体的には、企業見学もしくは職業人講話など出前授業を通して、将来なりたい職業に就くために必要な資質・能力を高校・大学でどのように身に付けていくのかを考えさせる機会や熊本県の企業の魅力を伝える機会を作り出したい。また、他学科で行われる企業と連携した授業に普通科の生徒が参加できるようにすることで職業観を醸成する機会になると考える。

## 【4】天草工業高等学校

### (1) マイスター・ハイスクールビジョン

本校では、天工マイスター・ハイスクールビジョン（以後、AMHV）と称して以下の目標の下、マイスター・ハイスクール事業を推進していく。なお、AMHVは、本校のスクール・ミッションから抜き出したものであり、学校の教育目標とマイスター・ハイスクールの取組に相違がないようにした。

#### 天工マイスター・ハイスクールビジョン（AMHV）

- ・校訓「温厚」「誠実」「勤勉」のもと、天草地区にある工業系学科の高校として、Society5.0に対応する専門知識や技術を持ち、産業界に貢献できる技術者を育成する。
- ・コミュニケーションスキル等の向上を図り、地域の魅力ある資源を理解し、地域コミュニティを担う人材を育成する。

AMHVの取組状況を可視化、把握、評価するため、AMHV取組程度表（表1）及び、キャリア教育を通して身に付けさせたい基礎的・汎用的能力（表2）を作成した。この表も、AMHVや学校経営案で掲げるキャリア教育推進の方策を元に作成している。これらを用いて各工業科での取り組みにおいて、AMHVをどれだけ達成できているか、目標と活動の乖離がないか確認するとともに、課題の洗い出しなどに活用する。

表1、表2と、各学科の企業連携を照らし合わせた表が学科別実施実績表（表3）となる。例として電気科のものを用いると、表3右側のAMHV欄および基礎的・汎用的能力欄において、数字およびカタカナが記載されているところの取り組みは達成できている部分を示している。電気科の場合は、AMHVの①Society5.0の取組が十分でない判断しており、また、キャリア教育の視点では、イ（自己理解・自己管理能力）とウ（課題対応能力）に対する取り組みが少ないため、次年度はこれらを意識して取り組む必要があることを示している。これにより、現在の取組状況や達成度と課題提起を同時にできることが最大の特徴である。

表1 天工マイスター・ハイスクールビジョン（AMHV）取組程度表

	マイスター・ハイスクールビジョン	機械科 専門高校生 インターンシップ 出前授業	電気科 天草電気工業組合との 連携および出前授業	土木科 体験型実習 実技講習 出前授業	情報技術科 CG制作実習等
①	Society5.0に対応する専門知識や技術を習得できる。	△	△	△	○
②	産業界に貢献しようとする態度を身に付ける。	◎	◎	◎	◎
③	コミュニケーションスキル等の向上を図る。	○	○	○	△
④	地域の魅力ある資源を理解する。	△	○	○	○
⑤	地域コミュニティを担おうとする態度を身に付ける。	○	○	◎	◎

表2 キャリア教育を通して身に付けさせたい基礎的・汎用的能力

ア	人間関係形成・社会形成能力	他者の個性を理解する力、他者に働きかける力、コミュニケーション・スキル、チームワーク、リーダーシップ
イ	自己理解・自己管理能力	自己の役割の理解、前向きに考える力、自己の動機付け、忍耐力、ストレスマネジメント、主体的行動
ウ	課題対応能力	社会の情報化に伴う情報の理解・選択・処理等、本質の理解、原因の追究、課題発見、計画立案
エ	キャリアプランニング能力	学ぶこと・働くことの意義や役割の理解、多様な生き方の理解、将来設計、選択、行動と改善、勤労観・職業観等の価値観

表3 学科別実施実績表（電気科分）

実施時期	対象学年	内 容	連携企業	実施時間	AMHV			
11月20日(水)	2年生	天草ロマンティックファンタジー配電作業	天草電気工事協同組合	6h×1=6h	②	③	④	⑤
1月14日(火)	1年生	出前授業(物の見方と目の錯覚)	西部電設株式会社	2h×1=2h	②	③		
1月15日(火)	2年生	出前授業(KYT訓練)		3h×1=3h				
3月12日(水)	〃	出前授業	天草電気工事協同組合	3h×1=3h	②	③		⑤

キャリア教育の視点で期待する効果	基礎的・汎用的能力			
電気業界への高い興味・関心を持たせる。	ア	イ	ウ	
地域の企業等のつながりを深め、地域に貢献しようとする態度を身に付ける。				エ
学校では学べない実践的な学習から、高い専門性と就労意識を身に付ける。	ア			エ

※赤文字はAMHVを見て、取り組み内容を追加した部分を示している。

(2) 校内組織の概要

図1に示すとおり校内組織を構成した。校長のリーダーシップの下、管理職、MHS担当により方向性を定め、工業各科主任を中心に事業を推進していく。カリキュラムや授業時間に関しては教務主任から、キャリア教育に関しては進路指導主事から、MHSを通じた対外的な活動等については将来構想部長と協議を行う構成とした。

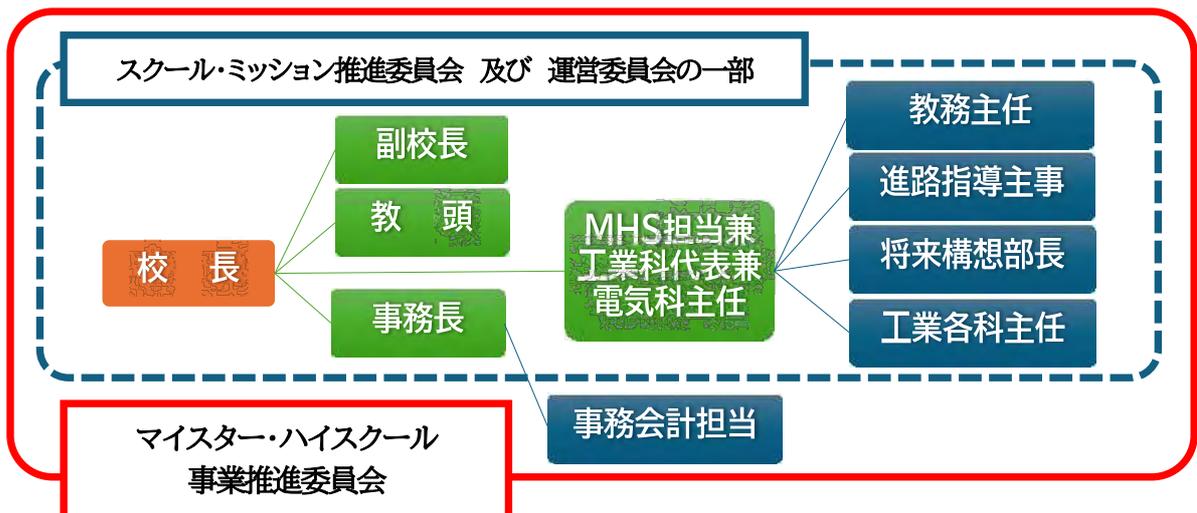


図1 校内組織図

### (3) 校内組織化を図る上での工夫と課題

#### 工夫

既存のスクール・ミッション推進委員会に事務長と事務会計担当を加える形で組織化した。また、事務会計担当以外のメンバーは運営委員会のメンバーでもあるので、毎月の運営委員会後に、事務会計担当を加えて会議を行うことで、定例化しやすくした。また、工業科代表兼科主任にMHS担当者を兼任させることで、情報の共有や伝達のを向上させ、スピーディに対応できる体制を作ることができた。更に、校時を午前3時間、午後3時間とし、3単位の授業である実習や課題研究が切れ目なく実施できるようにした。このことで、多くの企業の就業体制と合わさることになり、企業連携がしやすくなった。

本校のAMHVは、全ての県立高校が定めているスクール・ミッションや、キャリア教育の学習プログラムを整理したものであるため、これを雛形にして、各学校の学校経営に落とし込むことで、目標や取組み状況の可視化、評価表の作成が容易になり負担軽減にもつながるのではないかと考える（持続可能化やMHS事業を県下全域に広めるための一助にしたい）。

#### 課題

AMHVやキャリア教育で身に付けさせたい基礎的・汎用的能力の達成状況の評価方法を工夫する必要がある。現在は、各科の判断に委ねているが、連携企業先に評価をしていただくことや、企業や生徒へのアンケート結果をもとに評価をするなどの明確な評価規準や評価方法の検討が必要である。

### (4) 校内全教員への理解を図るための取組

今のところマイスター・ハイスクール事業推進委員会のみだが、これからは進捗状況を月1回程度メールで全職員に向けて送信し、情報共有を図りたいと考えている。

### (5) 自治体や地域との次年度への連携に向けて

各教科のシラバスを用い、学校と企業との対話から連携実習等の実施時期を設定することで、次年度以降のカリキュラムをブラッシュアップしていきたい。

### (6) 各学科における成果と課題

#### 【機械科】

##### ア 目標

急速な技術革新に対応し、持続可能な社会づくりに貢献する機械技術者を育成する。

##### イ 産業界とのマッチングの経緯

- 生徒の職業選択能力向上（業種職種理解）のために様々な業種・職種の企業と連携を行いたいと考えた。そのことを産学連携コーディネータと共有し、今年度は地元企業4社とつながることができた。

##### ウ 産業界との対話により、再検討をしている「育みたい生徒の資質・能力」

- 現状では、「ア 目標」にて記載しているとおり。今後、産業界と対話を進め、必要に応じて改善する予定である。

## エ 実施内容

学年組	科目	回数・時間	連携企業等
2年	実習	1回・32時間	九州柳河精機・ルネサスセミコンダクタマニュファクチュアリング・極陽セミコンダクターズ・シナジーシステム
<p>本県の「専門高校生インターンシップ事業」を活用し、以下の4事業所で現場実習を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 九州柳河精機様 (参加生徒6名) 会社説明、安全衛生教育、受入座学、現場受入、職場見学、現場実習(別々の職場に配属される(2日間(16時間))、実習フィードバック、全体工場見学、成果発表会</li> <li>○ ルネサスセミコンダクタマニュファクチュアリング様 (参加生徒2名) 工場概要説明、受入手続、製造部実習(生産オペレーション体験(クリーンルーム))、工場内プラント説明、プロ装実習(修理内製・機械工作)、製造部実習(設備保全)、製造部実習(プロセス保全実習)</li> <li>○ 極陽セミコンダクターズ様 (参加生徒3名) オリエンテーション、熊本地区業務説明、動力課概要説明、動力課業務実習、環境技術課実習、安全作業教育、回転機器分解整備実習、クリーンルーム実習、運転管理見学、ガス概論座学、液化ガス受入見学、ガスセンター構内巡視、実習報告会</li> <li>○ シナジーシステム様 (参加生徒4名) ロボットセミナー、ロボット実技教育、ロボット学科教育、安全教育・図面読解、加工品仕上げ、検査、配線、組立、エア機器講習、成果発表会</li> </ul>			



学年組	科目	回数・時間	連携企業等
2年	実習	1回・4時間 (4社)	九州柳河精機・ルネサスセミコンダクタマニュファクチュアリング・極陽セミコンダクターズ・シナジーシステム
<p>生徒の職業選択能力向上(業種職種理解)のために、県教委の専門高校生インターンシップ事業を活用して現場実習を行った4事業所による出前授業を実施した。</p> <p>①連携前の授業の課題 校内で行う座学や実習だけでは、将来の仕事や実際の現場で学んだことが、どのように活かされるのかが分かりづらく、専門性を深められていない。</p> <p>②産業界との連携により変化した授業内容 産業界で活躍する熊本の技術者と関わり、更に専門性を深める機会となった。実際に産業界の知識や技術に触れることによって、地域産業への理解を深め、今後の専門分野を学</p>			

ぶ上での指針や自らの進路を具体的に考えることにつながった。

### ③生徒の変化（感想）

- ・仕事をするためには専門的な知識が必要であり、日頃の学習が大切だと思った。また、言動の責任の重さや時間厳守の大切さを学ぶことができたので、今後の学校生活の中で一つ一つの行動や発言に責任感を持って取り組みたい。
- ・働くことについては、ぼんやりとしたイメージしかなかったが、企業の方の話を聞き、イメージが鮮明になった。ものづくりは製造業だけではなく、それを支える人たちがいて成り立つものだと分かった。

### ④教員の変化

- ・企業の方と対話を行い、企業の求める人材を明確化することができた。また、授業や実習の中で実際に産業界の知識や技術に触れることが、生徒の学びの深化につながると実感することができた。今後の教育活動に活かしていきたい。
- ・従来は、①事前研修、②現場実習、③事後研修であったが、これに加えて④出前授業を実施することができた。次年度は、更に⑤企業見学を実施できればより深い業種職種理解に繋がるのではないかと感じた。



## オ 今年度の課題

県教育委員会の専門高校生インターンシップ事業を活用しての実習は、一部の生徒の参加のみとなっており、機械科全体としての取り組みになっていない。今年度は、出前授業を実施したものの、経験から生じる生徒間の温度差があり、十分な成果を得ることができなかった。

## カ 次年度へ向けての方向性・計画

今年度、産学連携コーディネータと連携し、地元企業4社（ヤマハ天草製造様、天草エアライン様、新和光学様、熊本部品様）とつながることができた。次年度までにどのような連携ができるのか、内容を精査していく予定である。

今後の計画としては、4月に新生生を対象に行う安全教育（KYT 訓練等）を企業と連携して実施する予定である。また、見学と現場実習の企業に関連性を持たせ、学びが深化するように工夫したい。

## 【電気科】

### ア 目標

電気の専門知識・技術を習得し、生きる力、考える力を備えた電気技術者を育成する。

### イ 産業界とのマッチングの経緯

○全員受験の第二種電気工事士の資格を活かした作業の機会を設けることで、専門教科への興味・関心を高めることができないかと考え、天草電気工事業協同組合様に協力していただき、イルミネーション施工時の、分電盤からVVFケーブルの配線・接続及びLED設置を行った。

○年度初めに行う安全教育を、企業の方々の経験を交えたものにしたと考え、西部電設様と連携して実施した。

**ウ 産業界との対話により、再検討をしている「育みたい生徒の資質・能力」**

○「ア 目標」にて記載しているとおり。今後、産業界と対話を進め、必要に応じて改善する予定である。

**エ 実施内容**

学年組	科目	回数・時間	連携企業等
2年	実習	1回・6時間	<ul style="list-style-type: none"> <li>・天草宝島観光協会</li> <li>・天草電気工事業協同組合青年部</li> </ul>

**学習内容**

**①産業界との連携により変化した授業内容**

「天草ロマンティックファンタジー」における各種ケーブル接続、防雨処理及びLED設置作業

**②生徒の変化（感想）**

- ・自分たちが学んできた知識や技術、資格を活用して、人の役に立つ活動ができたことで、自分の学科への自信や誇りを感じることができた。
- ・これまで、地元の企業の方々が協力してこのイベントを成立させていたことを知った。感謝の気持ちでいっぱいである。
- ・脚立の上での作業の危険性などを実感できた。安全を考慮した作業の重要性について考えることができた。
- ・地元イベントに対して運営側に回ることで、当事者意識が高まった。



**③教員の変化**

- ・天草市を盛り上げるために、多くの企業様が協力していることが分かった。教育活動の一環としてではあるが、生徒とともに地元のために活動できてよかった。
- ・ほぼすべての企業様が本校電気科出身であった。取材に来た地元ケーブルテレビの記者も本校電気科出身であった。卒業生との対話や関係性の築きの場としてもよいと感じた。
- ・第二種電気工事士の知識と技術を活かす場を設けることができた。
- ・これをきっかけに郷土愛や地元で働くことへの意識に繋がればよいと感じている。

学年組	科目	回数・時間	連携企業等
1・2年	実習	1回・4時間	西部電設株式会社

**①連携前の授業の課題**

連携前は、工業技術基礎のオリエンテーション（4月）で基礎的な安全教育をするのみとなっていたため、より専門的な学びにしたいと学科内で協議をしていた。八代工業高校電気科での連携授業で、西部電設様が行った安全教育の連携授業を見学させていただいた際に、生徒への問題提起や協議への流れなどが非常によかったため、本校でも実施していただきたいと思った。

## ②産業界との連携により変化した授業内容

### ○安全教育（人間の注意力と目の錯覚について）

通信技術を主とした会社紹介、人間の注意力と錯覚の体験、光ファイバー及び簡易的な光通信の実験

### ○安全教育（KYT）

通信技術を主とした会社紹介、危険予知訓練（KYT）、危険個所と改善点について協議及び発表

## ③生徒の変化（感想）

- ・安全に対して、ここまで細かく考えなければならぬとは思わなかった。
- ・イルミネーション設置作業等で脚立を使ったが、先にこの授業を受けておけば、より安全な作業ができたと思う。
- ・見間違いよりも認識の違いに気をつけることが重要ではないかと感じた。

## ④教員の変化

- ・従来は、ここまでしっかりと安全教育をしていないため、私達も勉強になった。生徒たちが働き始めて、おそらく毎日使う知識と技術となるため、企業の方々に指導してもらうことで、より説得力のある授業を実施できたと感じる。
- ・光ファイバーについての指導も興味深かった。送配電関係だけではなく様々な指導が生徒の視野を広げるきっかけになるのではないかと感じた。
- ・実施時期を4～5月にして、実習オリエンテーション内で実施できるとより効果的だと感じた。もしくは生徒の意見を考慮して、イルミネーション設置作業の直前に実施すると、学んだ知識のアウトプットの場を提供できるのではないかと思った。



## オ 今年度の課題

天草電気工事業協同組合様とのイルミネーション施工時期は、2年生が全員受験する、第二種電気工事士試験後であったため、一定の知識と技術を習得した状態で実施できた。一方、安全教育においては、計画していた実施時期より大きくずれてしまったため、連携授業の実施時期について協議する必要がある。

## カ 次年度へ向けての方向性・計画

次年度は合計8社（団体）と連携するため、各企業と協力し、授業内容の精査と実施時期の調整作業をする必要がある。また、実習、課題研究、電力技術、電気機器等の授業で連携授業を展開できるように調整する。

## 【土木科】

### ア 目標

建設産業への関心を高め、地域社会の発展と暮らしを創造する技術者を育成する。

### イ 産業界とのマッチングの経緯

- 実践的、体験的な学びを通して、基礎的知識および専門的技術を習得させ、将来の社会的、職業的な自立につなげるとともに、最先端技術を活用し、ICT活用能力を高めることをねらいとして授業を展開してきた。
- 業界の方との対話の中で、学校が求める課題と業界が抱える課題がマッチしたため、各種団体による出前講座をはじめ、イベントや体験型の実習を行い、業界と学校が協力して人材の育成を行っていくこととした。

### ウ 産業界との対話により、再検討をしている「育みたい生徒の資質・能力」

- 地域産業の理解促進による、高い建設産業への関心
- 業界の方との対話を重視した取組から育まれる、主体性や協調性
- 適切な目標の設定及び実習内容の「仕事」としての位置付けによる、勤労観や職業観

### エ 実施内容

学年組	科目	回数・時間	連携企業等
3年	実習・課題研究	25回・60時間	建設業協会、測量設計コンサルタント協会、建築士会、他関連企業

#### ①産業界との連携により変化した授業内容

ドローン講習及びドローンフライトマスターに係る学科と実技講習、出前講座、建築施工管理に関する講義を経て、現地測量による平面図作成を行った。

ここでは、「測量」という仕事を学び、地図をつくるため、将来の駐車場改修工事の基礎資料として「現況平面図」を作成したが、以下の項目を「仕事」として設定した。

- 契約金額：¥10,000,000
- 発注機関：天草工業高等学校長
- 受注機関：天草工業高等学校土木科3年

#### ②生徒の変化（感想）

- ・建設業で使う技術を学ぶことができたので、将来は建設業に就き、将来に繋げていきたい。
- ・初めて触れる電子機器に様々な操作法があり、今回の講習だけで覚えることは難しかった。この経験を就職先でも忘れることなく生かしていきたい。

#### ③教員の変化

- ・実社会で用いられている最新の技術に触れることで、自身のアップデートに繋がり、専門分野への知見が広がった。
- ・企業が仕事を請け負う形を模倣した実習とすることで勤労観・職業観の醸成につながった。



学年組	科目	回数・時間	連携企業等
2年	実習	5回・20時間	<ul style="list-style-type: none"> <li>・建設業協会</li> <li>・測量設計コンサルタンツ協会</li> </ul>

### ①産業界との連携により変化した授業内容

校内コンクリート舗装実習やマイタイムラインの作成、測量設計に関する最新機器の実技講習をとおして、日常の学びと産業界とのつながりを実感することができた。

舗装実習では、業界の方の協力を得てクラス全員がコンクリート打設の全工程を体験する授業方法とした。このことにより、工程を俯瞰的に学ぶことができ、理解の深化につながった。

また、仕事が形に残ることで、土木に関する自信と誇りを持つことができた。



### ②生徒の変化（感想）

- ・作業計画、段取り力についての意識向上につながった。
- ・新しい機器やシステム等を活用する力が身に付いた。
- ・安心、安全管理への配慮及び協働する力の必要性を感じた。



### ③教員の変化

- ・専門性の向上につながり、資格試験対策や授業など教育現場に還元することができた。
- ・企業と共に現場実習を行うことで、勤労観、職業観の育成につながり、将来への進路選択の幅を持たせることができた。
- ・地域を知る機会となり、地域コミュニティを担う人材の育成へとつながると共に、郷土愛を育むことができた。

## オ 今年度の課題

本取組で学習している内容を教育課程とマッチングさせ、教育効果を高めるとともに、地域産業の理解促進を図る必要がある。

## カ 次年度へ向けての方向性・計画

建設業協会を中心とした産業界との対話をとおして、学校の育てたい人材像と産業界が求める人材像について共有し、教育課程に落とし込む。

## 【情報技術科】

### ア 目標

クリエイティブな能力を習得し、電気・情報エンジニアと 3DCG デザイナーを育成する。

### イ 産業界とのマッチングの経緯

天草市の人口は、県内市町村第3位であるものの、昭和30年代から一貫して人口減少が続いている。年間約1,400人減少しており、中でも若者のニーズに合う雇用の場がない等の原因で高校卒業を機に、8割以上の若者が市外へ転出してしまいうことが大きな課題となっている。天草市は対策の一つとして、若者に人気で、雇用人数を見込め、インターネット環境があれば就業場所を選ばない、ゲーム・アニメ等のコンテンツ産業の創出に着手し、天草市、天草工業高校、(株)Orenda world が連携協定を結ぶこととなった。本校では情報技術科にCG系列を設立し、(株)Orenda world 様から講師を派遣し、工業技術基礎等でCG制作について指導していただいている。

### ウ 産業界との対話により、再検討をしている「育みたい生徒の資質・能力」

3DCG デザイナーとしての就職を目指した、実践的な技術の習得を目指す。

学校で教えていたものは操作技術のみで、実践に即したクリエイティブなものではなかったため、実践的な技術を身に付けることができるカリキュラムを検討している。

### エ 実施内容

学年組	科目	回数・時間	連携企業等
1年	工業技術基礎	32回・96時間	(一社) デジタルアート天草

令和6年度1年次より、情報系列とCG系列に分かれて授業を実施している。情報系列は従来の情報技術系の実習、CG系列はCG制作実習を主体としたカリキュラムである。

CG系列の授業実施に当たっては、産業実務家教員と協議してカリキュラム作成を行っている。



#### ①生徒の感想

- ・CGに関わる職業がたくさんあることや、どういうやり方で作っているかを知り、CG分野は奥が深いと思った。また、制作を通してエラーへの対処や想像したものをCGで表すことが、難しく大変だと実感した。
- ・自分が考えているものをCGとして作れることが楽しいと思った。何も知らなかったので学ばないといけないことも多かったが、作り上げたときは達成感があって嬉しかった。
- ・3DCGの技術はもちろん、作る上で大切なことやマナーなど様々なことを学べた。それを通

して、3DCG を用いた作品の見方も大きく変わり、作品の凄さ、大変さが身に沁みて分かるようになったと思う。

#### ②教員の変化

- ・いままでシステム面のみの知識に偏っていたが、デザイン面の知識も強化された。テクニカルアーティストという職種を知り、双方の知識を持たせることの有意性を確認できた。
- ・いままで企業の方と仕事上の深い関わりを持てていなかったが、関わりができたことでこれまで得られなかった感覚や視点に気づくことができた。
- ・企業の方と打合せながら授業を行うことで、実践的な技術の指導を行うことができるようになった。

#### オ 今年度の課題

2年後の進路先の確保が必須である。CG 系列最初の就職活動を間近に控えており、次年度の中盤から終盤にかけて進路指導や三者面談が開始される。就業先を確保するとともに、校内での進路指導についても、従来とは違う方法になる可能性もあるため、ハローワークや県教育委員会と情報共有しながら、進めていく必要がある。

#### カ 次年度へ向けての方向性・計画

2・3年次カリキュラムの作成と1年次カリキュラム及び評価方法の改善を行う。

また、次年度からは、2年次は実習、3年次は実習、課題研究、学校設定科目でCGに関する連携授業を実施するため、CG 系列に係る人員の増加が必要である。

さらに、高性能パソコンを電気科と共用しているため、互いに融通しながら授業が展開できるよう時間割に工夫を加えることも必要となる。

## 第6章 事業評価アンケート結果と現状分析

### 1 調査対象

八代工業高等学校・玉名工業高等学校・阿蘇中央高等学校・天草工業高等学校の全生徒および教職員

### 2 調査期間

令和6年12月～令和7年1月

### 3 調査方法

株式会社内田洋行 教育総合研究所による「マイスター・ハイスクールネットワーク構築にかかる支援及び専門高校の産学連携に関する調査研究事業」によるアンケート調査を活用

### 4 回答数

拠点校	1年	2年	3年	合計	教職員
八代工業高校	160	182	161	503	74
玉名工業高校	129	180	120	429	63
阿蘇中央高校	82	92	67	241	82
天草工業高校	142	191	142	475	57
合計	513	645	490	1,648	276

### 5 結果

#### (1) 生徒・教員アンケート

本県では、学校への調査の重複を避け、負担の軽減を図るため、文部科学省による調査研究事業と本県のアンケートを一元化した調査を試みた。本県で予定していた評価アンケートについて、株式会社内田洋行教育総合研究所に情報提供を行い、同研究所が実施した調査結果を活用して分析を行った。以下に示す10項目は、生徒と教員に対して同様の設問で調査を実施したものである。なお、「将来の目標」と「将来への展望」については、生徒のみを対象とした設問項目である。本県の学校におけるKPIとして、以下の3項目の割合を向上させることを達成目標としている。

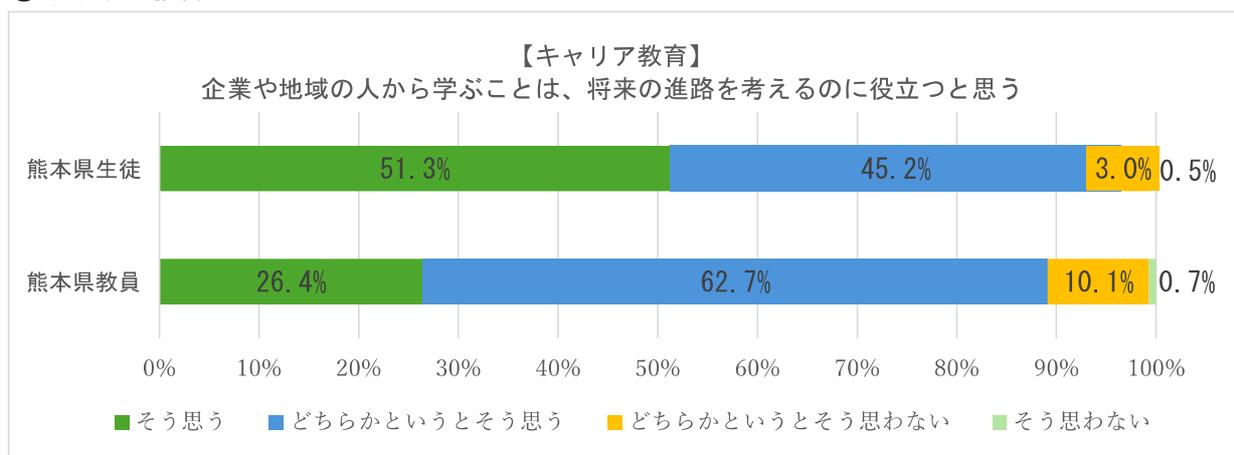
カテゴリ	設問	目標値
知識・技術を学ぶ意欲	授業で学んでいる知識や技術について、もっと知りたいと思う	現状 92% KPI 97%
知識・技術の理解	仕事や社会の中で使われている知識や技術について、理解していると思う	現状 79% KPI 85%
知識・技術の活用力	仕事や社会で使われている知識や技術を、普段の生活の中で役立てたいと思う	
知識技術と実社会の関連性	仕事や社会の中で使われている知識や技術を学ぶことで、学校の授業がなぜ大切か分かった	
キャリア教育	企業や地域の人から学ぶことは、将来の進路を考えるのに役立つと思う	
県内企業の理解	地域の企業や産業について、進路を考えるための情報を十分に知ることができた	
県内就職意欲	地元の企業に就職したいと思う（進学する場合は卒業後に）	
地域貢献度	地域の発展に貢献したいと思う	現状 82% KPI 90%
将来の目標	将来の目標を考え、それを実現するために努力している	
将来への展望	将来に対して希望を持っている	

カテゴリ	熊本県生徒				熊本県教員			
	そう思う	どちらかという そう思う	どちらかという そう思わない	そう思わない	そう思う	どちらかという そう思う	どちらかという そう思わない	そう思わない
知識・技術を学ぶ意欲	35.8%	55.8%	6.9%	1.6%	12.7%	67.0%	19.6%	0.7%
	91.6%		8.4%		79.7%		20.3%	
知識・技術の理解	23.5%	56.3%	18.7%	1.5%	6.2%	54.3%	37.3%	2.2%
	79.8%		20.2%		60.5%		39.5%	
知識・技術の活用力	40.7%	53.6%	5.0%	0.7%	12.3%	62.3%	24.3%	1.1%
	94.3%		5.7%		74.6%		25.4%	
知識技術と実社会の関連性	32.6%	59.2%	7.0%	1.2%	13.0%	61.2%	23.9%	1.8%
	91.8%		8.2%		74.3%		25.7%	
キャリア教育	51.3%	45.2%	3.0%	0.5%	26.4%	62.7%	10.1%	0.7%
	96.5%		3.5%		89.1%		10.9%	
県内企業の理解	29.0%	58.9%	10.8%	1.3%	17.8%	62.3%	19.2%	0.7%
	87.9%		12.1%		80.1%		19.9%	
県内就職意欲	22.8%	41.3%	24.2%	11.7%	20.7%	58.7%	18.5%	2.2%
	64.1%		35.9%		79.3%		20.7%	
地域貢献度	28.2%	53.9%	14.9%	2.9%	19.2%	48.9%	29.0%	2.9%
	82.2%		17.8%		68.1%		31.9%	
将来の目標	29.5%	57.9%	11.4%	1.2%				
	87.4%		12.6%					
将来への展望	33.7%	52.2%	11.7%	2.3%				
	86.0%		14.0%					
平均	86.2%		13.8%		75.7%		24.3%	

回答結果は上記のとおりである。「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を肯定的評価、「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」を否定的評価とし、各回答の平均値と比較して5～10ポイントの差があるものを薄色、10ポイント以上の差があるものを濃色（プラス：桃、マイナス：青）で示した。

生徒・教員の全体的な傾向として、肯定的評価が多かった。また、各回答の平均値と比較し、特徴のあるカテゴリについて分析を行う。なお、全設問において、生徒と教員の評価には統計的に優位な差が認められた（ $p < 0.001$ ）。t検定による生徒と教員の平均値の比較では、教員は生徒に比べて「そう思わない」と回答する傾向が見られた。

### ①キャリア教育

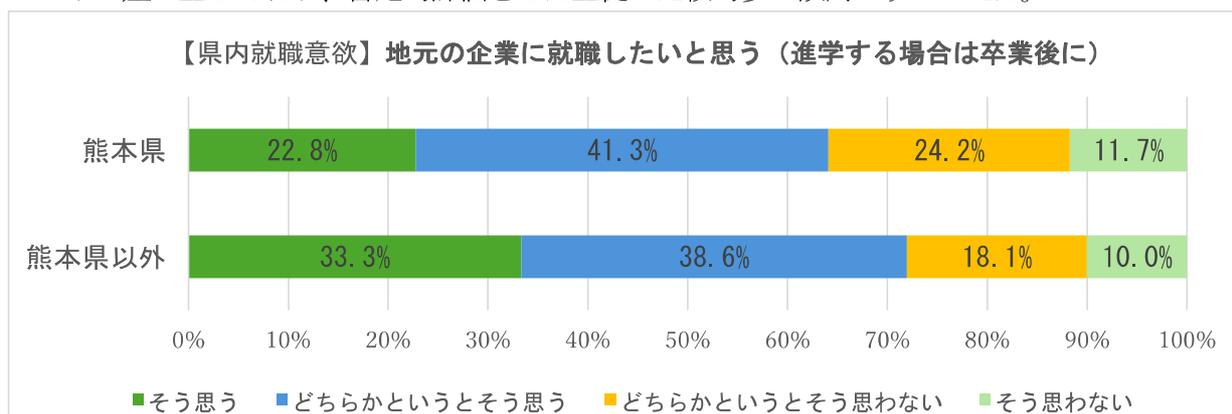


「企業や地域の人から学ぶことは、将来の進路を考えるのに役立つ」との設問に対し、96.5%の生徒が肯定的に評価し、各回答の平均値より10.3ポイント高い結果となった。このことから、生徒にとって、企業や地域の人から学ぶ経験が、将来の進路を考える上で影響があると実感していることがうかがえる。また、各校の取り組みに記載している生徒の感想からも、マイスター・

ハイスクールの学びが、キャリア教育に有意義な影響を与えていることが確認できる。教員の回答についても、生徒と同様に肯定的な評価が多く、教員から見ても、マイスター・ハイスクールの学びが、生徒にとってキャリア教育に意義のある機会になっていると捉えている傾向が見られた。

## ②県内就職意欲

本県において「地元の企業に就職したいと思う（進学する場合は卒業後に）」との設問に対し、肯定的評価は **64.1%**、否定的評価は **35.9%** となった。各回答の平均値と比較すると、**22.1** ポイントの差が生じており、否定的評価をした生徒が比較的多い傾向がうかがえた。

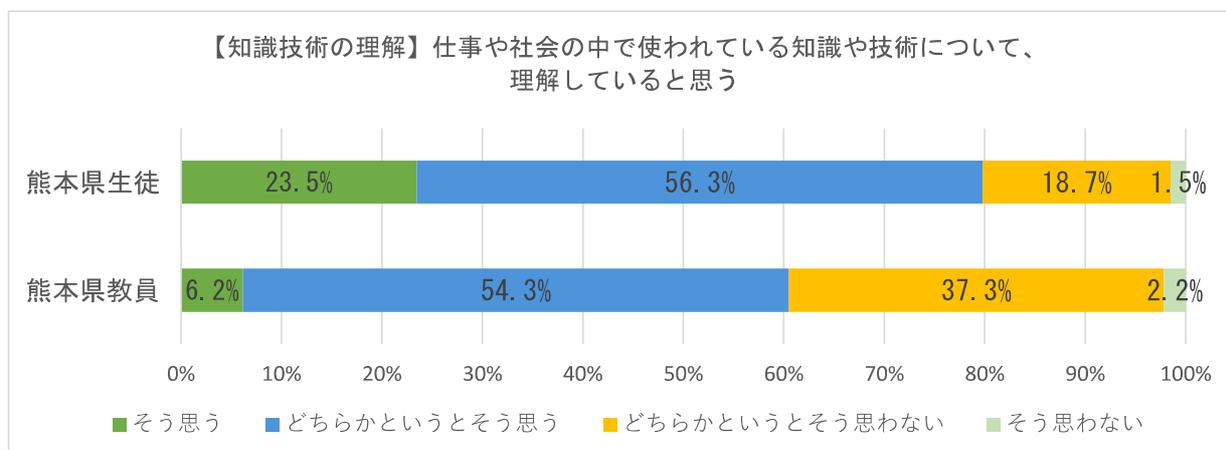


また、全国調査において、本県以外の生徒の **71.9%** が肯定的な回答をしており、本県の生徒と比較して **7.8** ポイント高い結果となり、統計的に有意差が認められた。(p<0.001)

これにより、熊本県の県内就職意欲は、6割以上の生徒が肯定的であるものの、他の都道府県と比較すると、低い傾向にあり、従来からの本県の課題を示す結果となった。

昨年度までの八代工業高等学校を指定校とする事業において、「県内企業理解」と「県内就職希望」に相関があることが明らかになっている。さらに「県内企業の理解」（地域の企業や産業について、進路を考えるための情報を十分に知ることができた）の設問では、**87.9%** の生徒が肯定的な回答を示した。今後も本事業をとおして県内企業・産業の理解を進め、必要な情報を十分に得た上での進路選択や、目標を持って学習に臨む環境を整え、生徒の自己実現に繋がる取組としたい。

## ③知識・技術の理解



教員においては、「知識・技術の理解」に関する設問で、各回答の平均値よりも否定的評価が **15.2** ポイント多い傾向が見られた。また、生徒においても平均値より **6.4** ポイント低く、同様の

傾向が確認された。一方で、生徒の79.8%は「理解していると思う」と肯定的な回答をしており、必ずしも低い状況ではないが、KPIの目標値は85%である。さらに、この設問は教員の回答の中で最も否定的評価が多かった。したがって、企業等と対話しながら連携した授業を検討する過程で、「仕事や社会の中で使われている知識や技術を学んでいる」と生徒が実感できる働きかけが必要である。そのために必要となる工夫や促しを意識した授業展開を試みることを、次年度の課題とする。

## (2)「社会人基礎力」

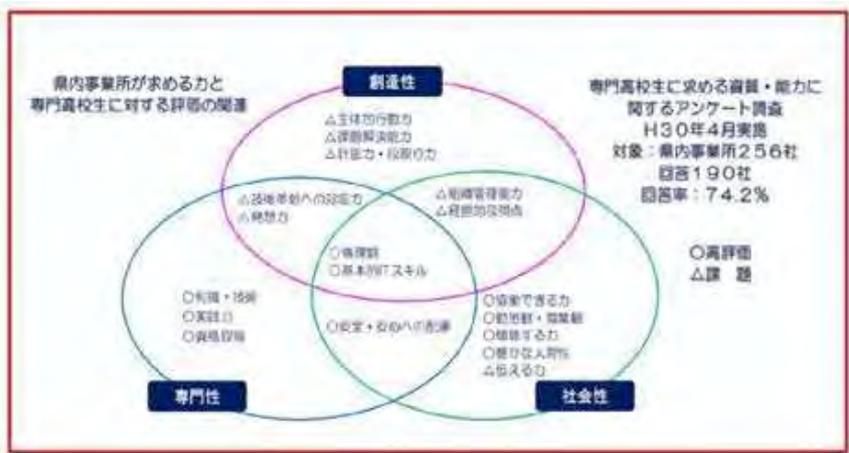
経済産業省が2006年に提唱した3つの能力（12の能力要素）から構成される「社会人基礎力」を指標として実施されたアンケートについて、本県の結果は以下のとおりである。



「4：そう思う」「3：どちらかといえばそう思う」「2：どちらかといえばそう思わない」「1：そう思わない」の4段階評価をもとに平均値を算出

3つの能力	12の能力要素	設問	評価割合				専門高校生に 県内企業が求める力
			そう思う	どちらか というと そう思う	どちらか というと そう思わない	そう思わない	
前に踏み 出す力	主体性	やるべきことに対して、積極的に取り組むことができる	29.4%	57.7%	11.8%	1.1%	△主体的行動力
			87.1%		12.9%		
	働きかけ力	目標を達成するために、周りの人の力を借りながら取り組むことができる	35.7%	56.9%	6.6%	0.7%	○協働できる力
				92.7%		7.3%	
考え抜く 力	実行力	失敗を恐れず、行動に移すことができる	20.8%	51.0%	25.9%	2.2%	△主体的行動力
			71.8%		28.2%		
	課題発見力	目標を達成するために、解決すべき問題を見つけられる	24.2%	61.2%	14.0%	0.6%	△課題解決能力 KPI：90%
				85.4%		14.6%	
チームで 働く力	計画力	何かの課題に取り組むとき、必要な手順について優先順位を決められる	27.7%	55.7%	15.2%	1.4%	△計画力・段取り力 KPI：90%
			83.4%		16.6%		
	創造力	何かの課題に取り組むとき、解決策の選択肢をいくつか挙げて検討することができる	22.3%	57.9%	18.4%	1.4%	△発想力 KPI：85%
				80.2%		19.8%	
チームで 働く力	発信力	話し相手に対して、自分の意見を分かりやすく伝えることができる	21.5%	55.6%	20.4%	2.5%	△伝える力
			77.1%		22.9%		
	傾聴力	話し相手の意見や主張を正確に聞き取ることができる	28.6%	61.8%	9.1%	0.5%	○傾聴する力
			90.4%		9.6%		
	柔軟性	相手の立場や意見を尊重することができる	38.6%	56.2%	4.8%	0.4%	○豊かな人間性
			94.8%		5.2%		
チームで 働く力	状況把握力	グループで活動するとき、何をすればよいか、自分の役割を理解できる	28.2%	59.9%	11.2%	0.8%	○協働できる力
			88.0%		12.0%		
	規律性	集団や社会生活の規則やルールを守ることができる	45.1%	51.1%	3.5%	0.4%	○倫理観
			96.2%		3.8%		
ストレスコントロール力	困難な問題に直面しても、諦めずに前向きに取り組もうとすることができる	30.8%	59.0%	9.5%	0.7%	△主体的行動力	
		89.7%		10.3%			

熊本県産業教育審議会の「地方創生に向けた今後の専門高校における産業教育の在り方について（令和2年2月17日答申）」において、県内企業等へのアンケート調査をもとに、最終答申にて右図の「専門高校生に県内企業が求める力」が示されている。「○」は熊本県内の就職先等企業から高い評価を受けた項目、「△」がこの点を更に伸ばしてほしいと求められる項目を表している。これらの項目を「社会人基礎力」の能力要素の指標に照らし合わせると、上記の表に示す項目に該当する。本県では「社会人基礎力」と併せて、本県における「専門高校生に県内企業が求める力」について、生徒の成長の変化を見取る予定である。



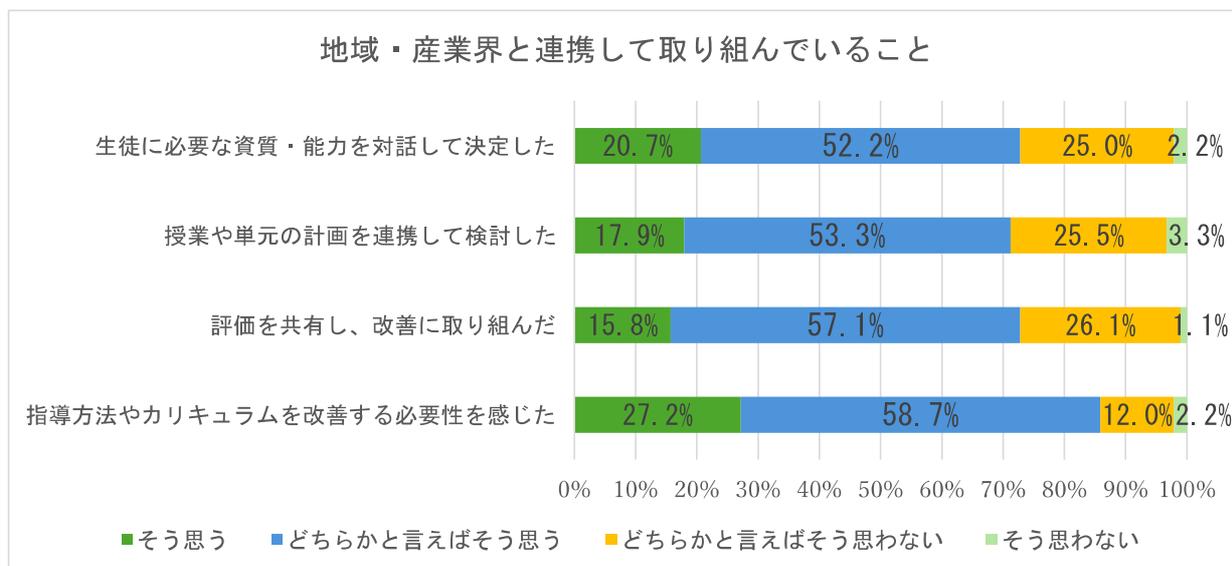
「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を肯定的評価、「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」を否定的評価として、平均値を算出した。「社会人基礎力」において、肯定的評価の高かった能力要素の上位は、「規律性」「働きかけ力」「柔軟性」であった。これは、熊本県産業教育審議会答申における「専門高校生に県内企業が求める力」においては、「倫理観」「豊かな人間性」「協働できる力」に該当し、いずれも高評価とされていた項目である。このことから、生徒たち自身も、これらの力が身に付いていると実感している傾向がうかがえる。

一方、「社会人基礎力」のうち、否定的評価が高い傾向にある能力要素は、「実行力」「発信力」「創造力」であった。これらの項目は、本県の「専門高校生に県内企業が求める力」における、「主体的行動力」「伝える力」「発想力」に該当し、いずれも県内企業から人材育成の課題として示されていた項目である。7割以上の生徒が肯定的に評価しているものの、本県の産業人材育成における課題として、引き続き産業界や地域と共有し、協働して育成に取り組む必要がある。

また、「社会人基礎力」の3つの能力のうち、能力要素の肯定的評価が上位に入らず、本県の「専門高校生に県内企業が求める力」においても、すべての設問で課題に該当しているのは、「考え抜く力」である。これら3つを本県のKPIに設定している。次年度は、産官学で共通認識を図った上で、地域課題を学びに取り入れ、地域や産業界と協働した課題発見・課題解決学習が生徒に与える効果について見取っていききたい。

### (3) 教員を対象としたアンケート

#### ア 関わりのある教員を対象とした調査結果 (n=184)



本県では、学校と地域（産学官金）が、ともに将来を担う人材を育成しようとするマインドを普及していくことを事業の目的としており、企業の方による授業を必ずしも実施しなければならないものとはしていない。そこで以下の設問を設定した。

- ・「生徒に必要な資質や能力について、産業界や地域社会と対話しながら決定するようになった」
- ・「産業界や地域社会と連携して、授業や単元の計画を検討するようになった」
- ・「産業界や地域社会と協働して取り組んだ学びの評価を共有し、それを基に改善に取り組んだ」

これは、PDCA サイクルのうち「目標の設定 (P)」、「授業計画 (P)」、「評価・改善 (C・A)」を、学校が産業界や地域社会とともに検討・改善しているかを評価するものであり、3つの設問すべてにおいて、7割程度の教員が肯定的な評価を行っている。さらに、産業界や地域社会と教育に関する相互の意見交換を行った結果、指導方法やカリキュラムの改善について、85.9%の教員が必要性を感じていることは、今年度の成果である。

以上の4つの設問について、さらなる向上をKPIに設定した。地域（産学官金）との対話をとおして、授業やカリキュラムを改善した点を教員が意識できるよう促すとともに、普及に向けて、学びの変化を可視化することを次年度の取り組みとする。

#### イ 拠点校全教職員を対象とした調査結果 (n=276)

拠点校4校の全教職員のうち、本事業との関係性の内訳は以下のとおりである。全体では、全教員の66.6%が本事業に関わっていると回答し、そのうち専門学科が82%、普通教科等が18%の割合であった。

	関わっている (授業実践・担当・管理職等)	関わっていない	計
専門学科	151	50	201
普通教科等	33	42	75
計	184	92	276

カテゴリ	関わっている				関わっていない			
	そう思う	どちらかという と そう思う	どちらかという と そう思わない	そう思わない	そう思う	どちらかという と そう思う	どちらかという と そう思わない	そう思わない
生徒の地域課題に触れる機会	18.5%	54.3%	23.9%	3.3%	7.6%	67.4%	25.0%	0.0%
	72.8%		27.2%		75.0%		25.0%	
教員の産業・企業の理解	25.0%	67.9%	7.1%	0.0%	9.8%	69.6%	19.6%	1.1%
	92.9%		7.1%		79.3%		20.7%	

「生徒には、地域の課題に直接触れる機会がある」という設問に対し、本事業への関わりの有無による有意差は見られなかったが、全体として**73.6%**の教員が肯定的に評価した。

また、教員自身について「地域の産業や企業について理解している」という設問では、全体の**88.4%**の教員が肯定的に評価した。しかし、本事業に関わっている教員と関わっていない教員を比較すると、有意差が認められ ( $p=0.0008$ )、関わっていない教員の方が、否定的評価をしやすい傾向が見られた。本事業をとおして、教員が地元の産業や企業と関わる機会が増えることで、理解が深まる可能性がある。今後も本事業を有効に活用することで、教員の地域産業・企業の理解が更に深まることが期待される。

本県では、普通科も含むすべての県立高校で「社会に開かれた教育課程の実現」を目的とし、熊本県版マイスター・ハイスクールの理念を普及している。学校の目標や育成したい資質・能力を、産業界や地域とともに考え、対等な関係で対話を重ねながら人材育成に取り組むことを目指している。普通科で大学進学を志す生徒であっても、「なぜ大学に進学するのか」という問いに向き合うことは、キャリア発達における重要なプロセスである。いずれ社会の一員として各業界で活躍することを考えれば、校種に関係なく、マイスター・ハイスクール事業の理念は、適合するものである。本事業への関わりの有無や、本事業の予算を活用した取組に限定せず、地域や産業界とのつながりを重視し、人材育成や授業展開を検討しようとする理念の普及を図る。

**第7章 「熊本県版マイスター・ハイスクール」に関する産業界へのアンケート**

**1 調査対象**

熊本県の以下8団体の会員

- |               |              |             |
|---------------|--------------|-------------|
| 熊本県情報サービス産業協会 | 熊本県工業連合会     | 熊本県経済同友会    |
| 熊本県中小企業家同友会   | 熊本県中小企業団体中央会 | 熊本県商工会議所連合会 |
| 熊本県商工会連合会     | 熊本県経営者協会     |             |

**2 調査期間**

令和6年12月～令和7年2月

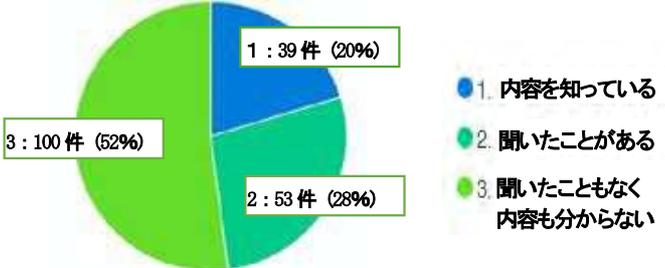
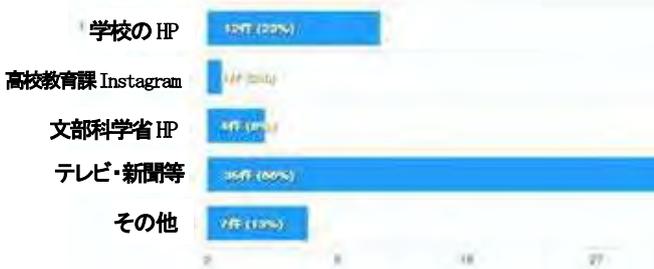
**3 調査方法**

LoGo フォーム

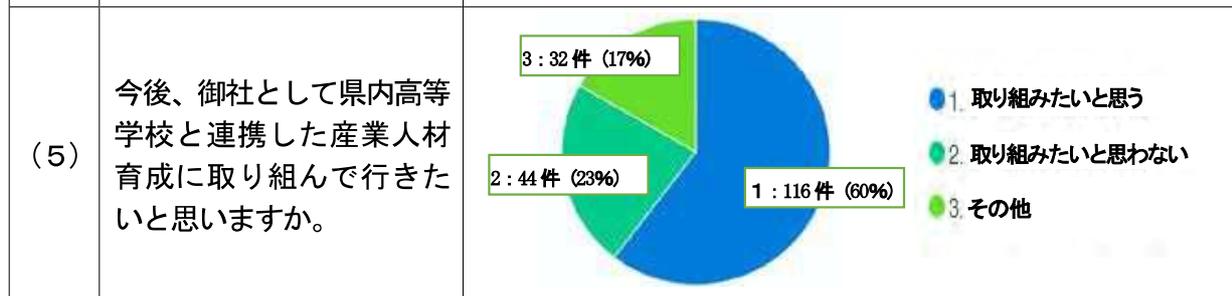
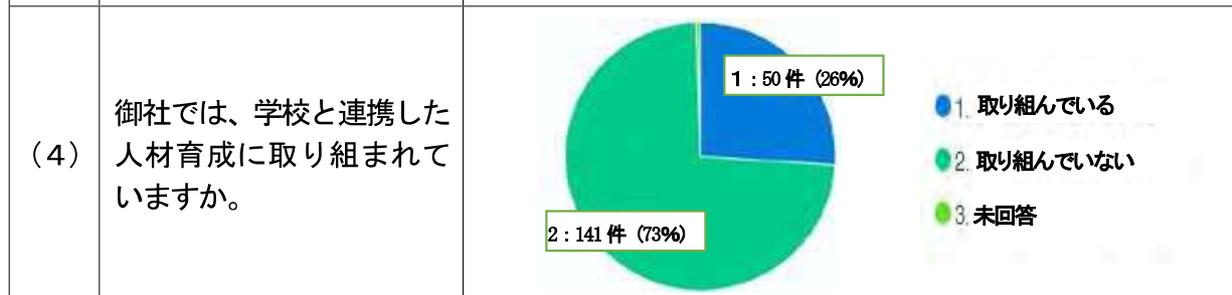
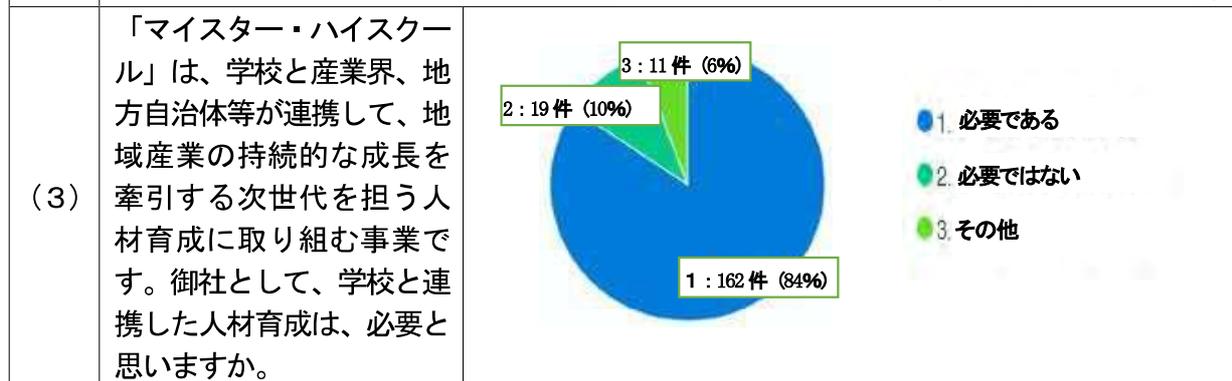
**4 回答数**

192 社

**5 結果**

質問項目	結果
(1) マイスター・ハイスクールをご存知ですか。	 <p>1 : 39 件 (20%) 2 : 53 件 (28%) 3 : 100 件 (52%)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 1. 内容を知っている</li> <li>● 2. 聞いたことがある</li> <li>● 3. 聞いたこともなく内容も分からない</li> </ul>
(2) 何でお知りになりましたか。(複数回答) ※(1)で「内容を知っている」選択者	 <p>会議等での情報 27件 (69%) 学校のHP 7件 (18%) 高校教育課 Instagram 2件 (5%) 文部科学省 HP 8件 (20%) テレビ・新聞等 15件 (33%)</p>
(2) (1)で「内容を知っている」と答えた企業39社のうち、昨年度まで管理機関であった熊本県情報サービス産業協会の会員企業は14社(35.9%)であった。また、今年度は熊本県情報サービス産業協会・熊本県工業連合会・熊本県中小企業家同友会の総会等で事業周知を行った。39社のうち、この3団体のいずれかに所属する会員企業は、28社(71.8%)であった。よって、(2)において、「会議等での情報によりマイスター・ハイスクールを知った」と回答した企業が一番多いことに起因していると考えられる。	
※(1)で「聞いたことがある」選択者	 <p>学校のHP 12件 (22%) 高校教育課 Instagram 1件 (2%) 文部科学省 HP 4件 (10%) テレビ・新聞等 13件 (36%) その他 7件 (19%)</p>

昨年度までの3年間でテレビ放映は15回程度、また新聞等の掲載等もあり、テレビや新聞等は、マイスター・ハイスクールを知るきっかけとして、有効であることが伺える。



(1) マイスター・ハイスクールの認知度と (4) 学校と連携した人材育成への取組状況のクロス集計

(4) \ (1)	内容を知っている	聞いたことがある	聞いたこともなく内容も分からない
取り組んでいる	23	10	17
取り組んでいない	16	42	83
未回答	0	1	0

マイスター・ハイスクールについて「聞いたこともなく、内容も分からない」と回答した企業のうち、17社 (17.0%) が学校と連携した人材育成に取り組んでいる。

(3) 学校と連携した人材育成の必要性と (4) 学校と連携した人材育成への取組状況のクロス集計

(4) \ (3)	必要である	必要ではない	その他
取り組んでいる	48	1	1
取り組んでいない	113	18	10
未回答	1	0	0

「学校と連携した学校と連携した人材育成は、必要と思いますか」の設問に「必要である」と回答した企業162社のうち、113社 (69.8%) は学校と連携した取組を実施していない現状にある。

(5) 学校と連携した取組への意欲と (4) 学校と連携した人材育成への取組状況のクロス集計			
(4) \ (5)	取り組みたいと思う	取り組みたいと思わない	その他
取り組んでいる	47	1	2
取り組んでいない	68	43	30
未回答	1	0	0

「県内高等学校と連携した産業人材育成に取り組んでいきたいと思いませんか」の設問について、「取り組みたいと思う」と回答した企業116社のうち、既に取り組んでいる企業が47社(40.5%)、取り組んでいない企業が68社(58.6%)となった。さらに、「その他」に回答した企業32社のうち、「取り組んでいない」と回答した企業30社の理由は、以下の傾向が見られた。

- ・学校のニーズや実際の取組が見えない、いい取り組みと分かれば協力したい(8社)
- ・学校からの依頼があれば取り組みたい(6社)
- ・社内のリソースが整えば協力したい(5社)
- ・現状では不明(5社)
- ・その他(6社)

(6)	(5)で回答された理由をお答えください。 ※「取り組みたいと思う」と回答した企業の記述	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高校生に熊本の産業や企業について知ってもらうことは、将来「熊本で働きたい」と思う若者が増え、地域活性化にも繋がる、CSR活動の一つと考える。</li> <li>・本音は採用に繋げたい意もあるが、それを抜きにしても、地元企業として地元学生のキャリア形成を支援したい。</li> <li>・社内での人材育成に関わる研修の一環として取り組みたい。</li> <li>・高校教育から、社会のニーズに応じた教育をする事で、社会に出て自分のスキルが自信に繋がる様な教育が必要。</li> <li>・慢性的な人手不足と技術者の高齢化問題への解決のため。</li> </ul>
	※「取り組みたいと思わない」と回答した企業の記述	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人手不足により対応が困難であるため。</li> <li>・高卒求人の雇用は考えていないため。</li> <li>・特殊な技能が必要な職種ではないため「社会人としての人材育成」を入社後に行う形が適当。</li> </ul>

(7) 御社と県内高等学校が連携した産業人材育成に取り組む場合、ご提案いただける取組をお選びください。(※複数回答可)

取組内容	件数	割合
教育目標やカリキュラム検討	21件	18%
学校での出前授業・講話	64件	55%
課題研究・探究学習の支援	31件	27%
生徒のインターンシップ	91件	78%
職場・工場見学	60件	50%
教職員対象研修	21件	18%
未回答	2件	2%
その他	2件	2%

## 5 現状分析と今後の課題

本アンケート結果を受け、以下の2点を、本事業のKPIとして設定した。

- 「マイスター・ハイスクール」を知っていると回答した県内企業の割合を20%から、令和7年度末に40%まで向上
- 「県内高等学校と連携した産業人材育成に取り組みたいと思う」と回答した企業等の割合を60%から令和7年度末に80%まで向上

県内のマイスター・ハイスクールの認知度は20%という結果を得たが、認知している企業のうち、3分の1程度は、昨年度まで管理機関であった熊本県情報サービス産業協会の会員企業であった。県内普及を目指す本事業について、新たに知る機会を積極的に設けていく必要がある。今年度は、3団体の産業・経済団体の総会等で事業周知を行った。

次年度は、アンケート実施に協力を頂いたその他の5団体をはじめ、産業・経済団体の総会等を活用して周知し、県内の認知度の向上を図る。特に、拠点校の取組を積極的に発信する等、メディアを効果的に活用し、認知度向上のための手立てとする。

また、アンケート結果から、全回答数のおよそ5分の4の企業は、高校と連携した産業人材育成の必要性を感じているが、実際に取り組んでいる企業は、約4分の1であった。

さらに、全回答数の4割近くの企業が、現状取り組んでいないが、今後取り組みたい意向を持っていることから、今後の県内普及に向けた前向きな兆しである。

また、企業の方から「学校からの依頼があれば検討する」「実際の取組が分かれば検討したい」との声があり、企業が取組を始めるか検討するための要素として、「マイスター・ハイスクール実践の見える化」「学校と企業のマッチング機能の見える化」が必要である。

KPI達成に向けて、具体的で効果的な情報発信と、産業界と学校の互いのニーズをマッチング実現に導く仕組みづくりが、次年度の課題である。

## 第8章 各委員会報告

### 1 第1回マイスター・ハイスクール運営委員会

#### (1) 開催日時及び参加者

ア 日時 令和6年7月9日(火) 14:00～16:00

#### イ 参加者

産業政策	熊本県 産業政策名誉顧問	村山 伸樹
産業界	一般社団法人熊本県情報サービス産業協会 会長	足立 國功
	株式会社肥後銀行 頭取	笠原 慶久
	一般社団法人熊本県工業連合会 会長	田中 稔彦
学識 有識者	熊本大学 理事・副学長	宇佐川 毅
	熊本大学教育学部 准教授	高崎 文子 (欠席)
	武蔵野美術大学造形構想学部 教授	若杉 浩一 (オンライン)
拠点校	八代工業高等学校 校長	染村 俊浩
	玉名工業高等学校 校長	西村 和久
	阿蘇中央高等学校 校長	米村 祐輔
	天草工業高等学校 校長	西村 洋信
管理機関 代表	熊本県商工労働部 部長	上田 哲也
	熊本県教育委員会 教育長	白石 伸一

(敬称略)

#### (2) 議事等

- ① 運営委員会における会長及び副会長の選任について  
 会長 熊本県 産業政策名誉顧問 村山 伸樹 委員  
 副会長 熊本大学 理事・副学長 宇佐川 毅 委員
- ② マイスター・ハイスクール普及促進事業の今後の進め方について  
 熊本県教育庁県立学校教育局高校教育課
- ③ 拠点校における本年度の取組の方向性について  
 八代工業高等学校(先導校) 玉名工業高等学校・阿蘇中央高等学校・天草工業高等学校

○拠点校の取り組みの段階的な発展に向けた支援策と県域普及について、御意見や質問はあるか。(村山会長)

(回答)

◆質問ですが、阿蘇中央高校の普通科の絡みは何かお考えか。(足立委員)

◆阿蘇市と保健科学大学との連携協定に基づき、高齢者の健康寿命延伸を目指した探求活動を進めている。普通科の特色化と弾力化を推進し、学科改編や大学・企業との連携を図る予定である。阿蘇は観光のまちなので、総合ビジネス科が取り組んでいる、多言語対応の観光案内アプリ開発などを、普通科にも発展させ取り組みたい。阿蘇市がスマート産業に関わる部分で、本校に予算を計上してくださる。これも追い風に進学に活用することも念頭に置き進めたい。(阿蘇中央高校 米村校長)

◆令和8年度以降に、普通科の高校にもこの考えを入れていく考えからすると、試金石となる。(村山会長)